

八月末から始まった秋学期が、間もなく終わろうとしています。アメリカの冬休みは、日本のそれよりも長く、三週間弱ほどあります。学生の多くは、クリスマスが始まる前に帰省し、家族と一緒にクリスマスを過ごすそうです。

宗教的な理由も含め、クリスマスには特別な思い入れがある人も少なくありません。日



本に住んでいた頃には考えもしませんでした。アパートにクリスマスツリーを飾ることは、こちらでは珍しくないそうです。十一月にあった、感謝祭と呼ばれる連休のあと、ルームメイト達と一緒に飾り付けをしました。感謝祭も、アメリカの伝統的な休日であり、この時も多くの学生が、帰省して家族と一緒に過ごしていました。感謝祭の際には、パレードが行われたり、コンサートが開かれたりしました。何度か大学の学生オーケストラを聴きに行くことができました。

授業中に気になった事ですが、学生たちが授業中に貧乏ゆすりをよくします。している人の人数自体が多い事と、周りでそれを気にしているそぶりを見せる人も見受けられない事から、アメリカでは悪い癖という意識はないのかもしれないと思いました。実際に、ルームメイトに尋ねてみるとやはり、悪い事ではないと言っていました。貧乏ゆすりは英語では、**bouncing one's leg**と言われ、集中力を保つためにする人が多いと聞きました。日本では、あまりするべきではないが、アメリカではしても問題ないことについての他の例として、人前で足を組むことが挙げられます。これについては、アメリカではむしろ、組む方が普通だと聞きました。些細な事かもしれませんが、国によってマナーが違うのは、興味深いと思いました。上記の二つの例はいずれも、「日本でやってはよくないが、アメリカでは問題ない事」の例でしたが、反対に、日本では問題ないがアメリカではすべきでない事もあると思うため、日頃気を付けようと思いました。

